日本技術士会神奈川県支部　第121回CPD講座　報告書　　HP用

開催日	2023年4月22日(土)
開催時間	13:30～16:50
名称	自然の再生や守りかたを考える ～都市と自然の共存を森林再生、流域保全から学ぶ～
主 催	公益社団法人日本技術士会神奈川県支部
開催場所	波止場会館４階　大会議室　および Web 中継
行 事 内 容	講演会
参加人数	82名（会場18名＋Web 64名）

内容

Ⅰ　講演概要

【講演1】「植生学から考える環境問題　-神奈川から世界へ向けた森林再生技術-」

講師：　地球環境戦略研究機関 国際生態学センター 主幹研究員　　目黒 伸一　氏　（博士（工学））

人間活動によって生態系の基盤となるべき植生は日本のみならず、世界的に減少・劣化している。この結果、生物的損失だけでなく、地球温暖化と相まって自然災害による被害の甚大化を引き起こし、毎年のように人命が失われている。そのような現在において、「宮脇方式」による環境保全林が地域環境や温暖化問題に対して効果的な植樹方法として日本はもとより世界的にも注目されてきている。創造された環境保全林は生長挙動、植えられた樹種の生態的特性などの生物的知見を教えてくれ、その後の植栽方針やその意義を考えるうえで貴重な情報源となる。さらには環境問題や自然災害に際して、科学的データに基づいた行動根拠や示唆を与えてくれる。

植生調査と環境保全林形成の成果とともに、その実証例や収集データから導かれる環境保全林における学術的意義、多機能的側面、教育・啓蒙的な役割、環境保全林の世界にまつわる潮流などが紹介された。

【講演2】「気候変動を生きのびるための流域思考」

講師：　特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーキング 代表理事、 慶応義塾大学　名誉教授
岸 由二 氏　（博士（理学））

気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、国土交通省は 2020 年 7 月「流域治水プロジェクト」をスタートさせた。これは、河川管理者だけではなくあらゆる関係者が協働して流域全体で行う総合的かつ多層的な水災害対策である。一方、鶴見川流域では、急激な市街化による水害に対応するため 1980 年より流域一体となって取り組む「鶴見川流域総合治水対策」が進められてきた。前者が「気候変動による外力の増大」、後者が「市街化による保水力の低下」への対応という違いがあるが、流域で治水に取り組むという基本は同じである。

鶴見川流域における総合治水対策 40 年の成果を振り返りつつ、今後予想される温暖化豪雨時代への備えについて紹介された。

講演1　目黒　伸一　氏

講演 2　岸　由二　氏